

問11 あなたは、今後どのような学習をしたいと思いますか。あてはまるものを3つまで選んで、番号に○印をつけてください。

回答者数 356人

#### <今回調査>

今後、どのような学習を行いたいと質問したところ、全体では「趣味的なもの」が46.9%と最も高く、以下「健康、家庭生活に関する知識や技能」が38.5%、「スポーツ・レクリエーション」が28.4%、「一般的知識や教養を高めること」が25.3%となっています。

男女別で見た場合、最も高いものは全体と同じです。2位以下について、男性は「スポーツ・レクリエーション」、「一般的知識や教養を高めること」、「健康、家庭生活に関する知識や技能」の順になっています。一方、女性は「健康、家庭生活に関する知識や技能」、「スポーツ・レクリエーション」、「一般的知識や教養を高めること」の順になっています。

年代別で見た場合、20歳代、30歳代では「職業上必要な知識や技能」、40歳代、50歳代、70歳以上では「趣味的なもの」、60歳代では「健康、家庭生活に関する知識や技能」が最も高く、各年代のライフスタイルを反映する結果となっています。また、30歳代では「育児、教育に関すること」、50歳代、60歳代では「情報通信に関すること」への関心が他の年代よりも高くなっています。

#### <前回調査との比較>※前回調査は単数回答

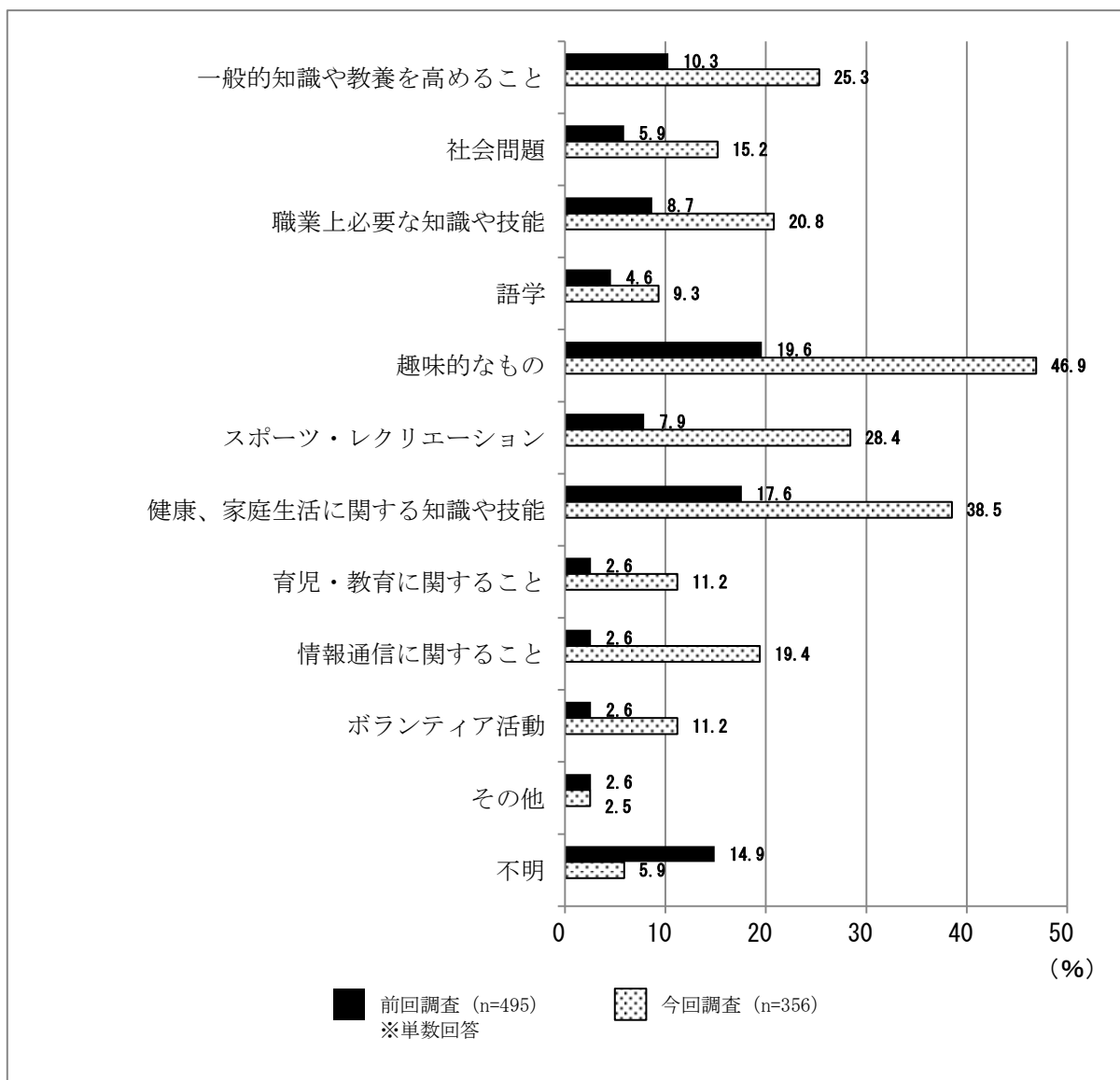
前回調査でも、「趣味的なもの」が19.6%と最も高く、以下「健康、家庭生活に関する知識や技能」が17.6%、「一般的知識や教養を高めること」が10.3%となっています。単純な比較はできませんが、現在の傾向と大きな差異は見られません。

#### <他の調査との比較>

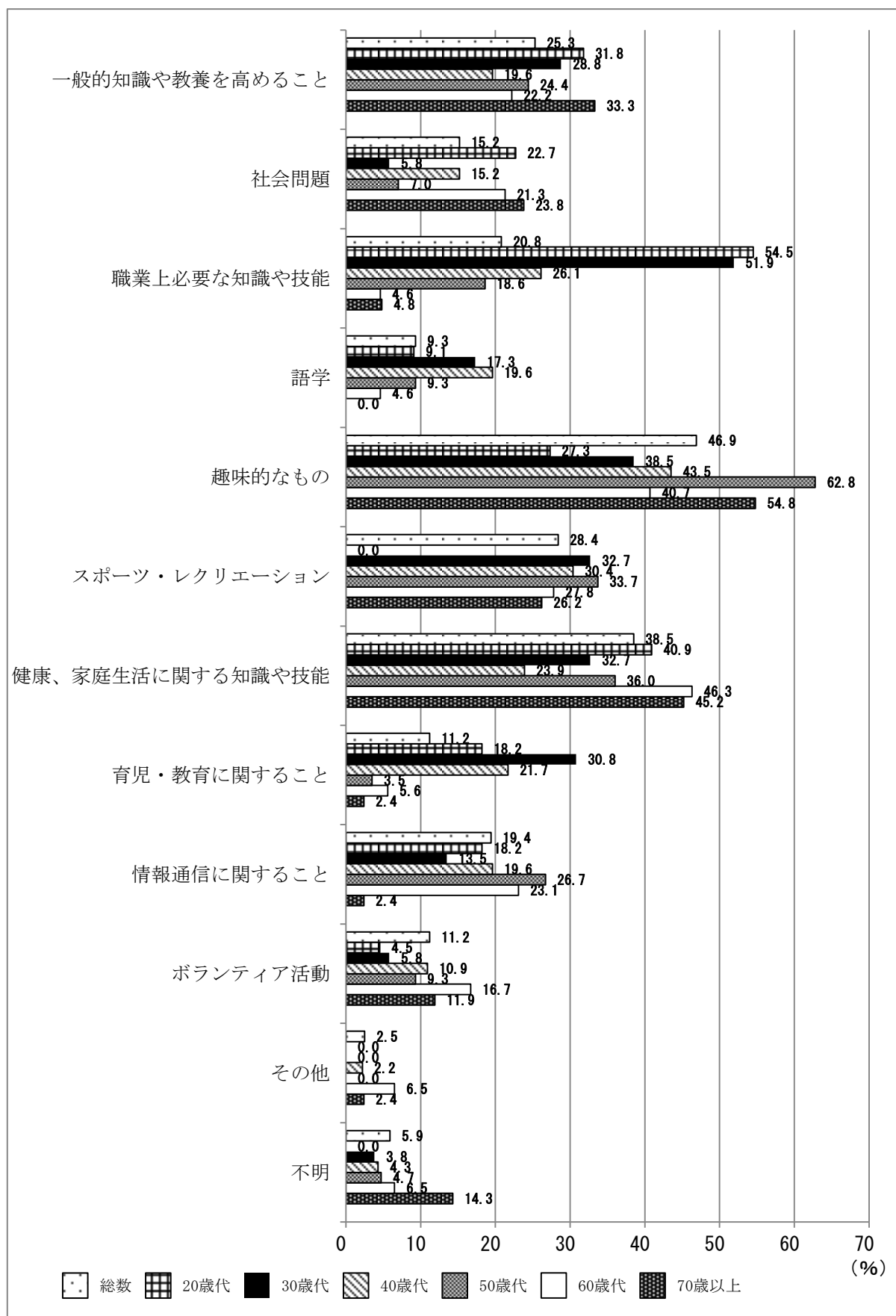
国の行った調査では、「趣味的なもの」が45.2%と最も高く、以下「健康・スポーツ」が43.3%、「家庭生活に役立つ技能」が28.3%、「教養的なもの」が27.3%となっています。三条市とはほぼ同じ傾向であることがうかがえます。

県の行った調査では、「趣味などを楽しんだり、技能を深めたりするもの」が44.2%と最も高く、以下「健康の維持や管理に関するもの」が30.5%、「スポーツ・レクリエーションなど」が26.3%となっており、こちらも三条市と同様の傾向が見られます。

<前回調査との比較>



<年代別>



問12 あなたが今後学習するとしたら、どのような方法を選びますか。あてはまるものをすべて選んで、番号に○印をつけてください。

回答者数 356人

#### <今回調査>

今後、学習するとしたらどのような方法を選ぶか質問したところ、全体では「国や県、市が公民館などで行う講座や講習会」が44.7%と最も高く、以下「テレビ・ラジオの講座」が33.4%、「図書、雑誌、新聞、テープ、CDなどを利用した学習」が33.1%、「パソコン・タブレット端末などを利用したインターネット学習」が26.7%となっています。

男女別で見た場合、男性は「テレビ・ラジオの講座」が35.7%と最も高く、以下「パソコン・タブレット端末などを利用したインターネット学習」と「国や県、市が公民館などで行う講座や講習会」が35.0%、「図書、雑誌、新聞、テープ、CDなどを利用した学習」が34.3%となっています。一方、女性は「国や県、市が公民館などで行う講座や講習会」が50.7%と最も高く、以下「テレビ・ラジオの講座」が32.2%、「図書、雑誌、新聞、テープ、CDなどを利用した学習」が31.7%、「民間の教室、カルチャーセンターなどで行っている講座」が29.8%となっています。男性に比べて、女性は、積極的に家の外での学習活動を求めてゆくこともうかがえます。

年齢別で見ると、20歳代から40歳代までの年代では「パソコン・タブレット端末などを利用したインターネット学習」が最も高く、50歳代から70歳以上の年代では「国や県、市が公民館などで行う講座や講習会」が最も高くなっています。また、60歳代と70歳以上では「自主的な団体や同好のグループ・サークル」の回答率も高く、年齢が高くなると自分から外へ学ぶ場所を求めてゆく方も多くなっています。

#### <前回調査との比較>

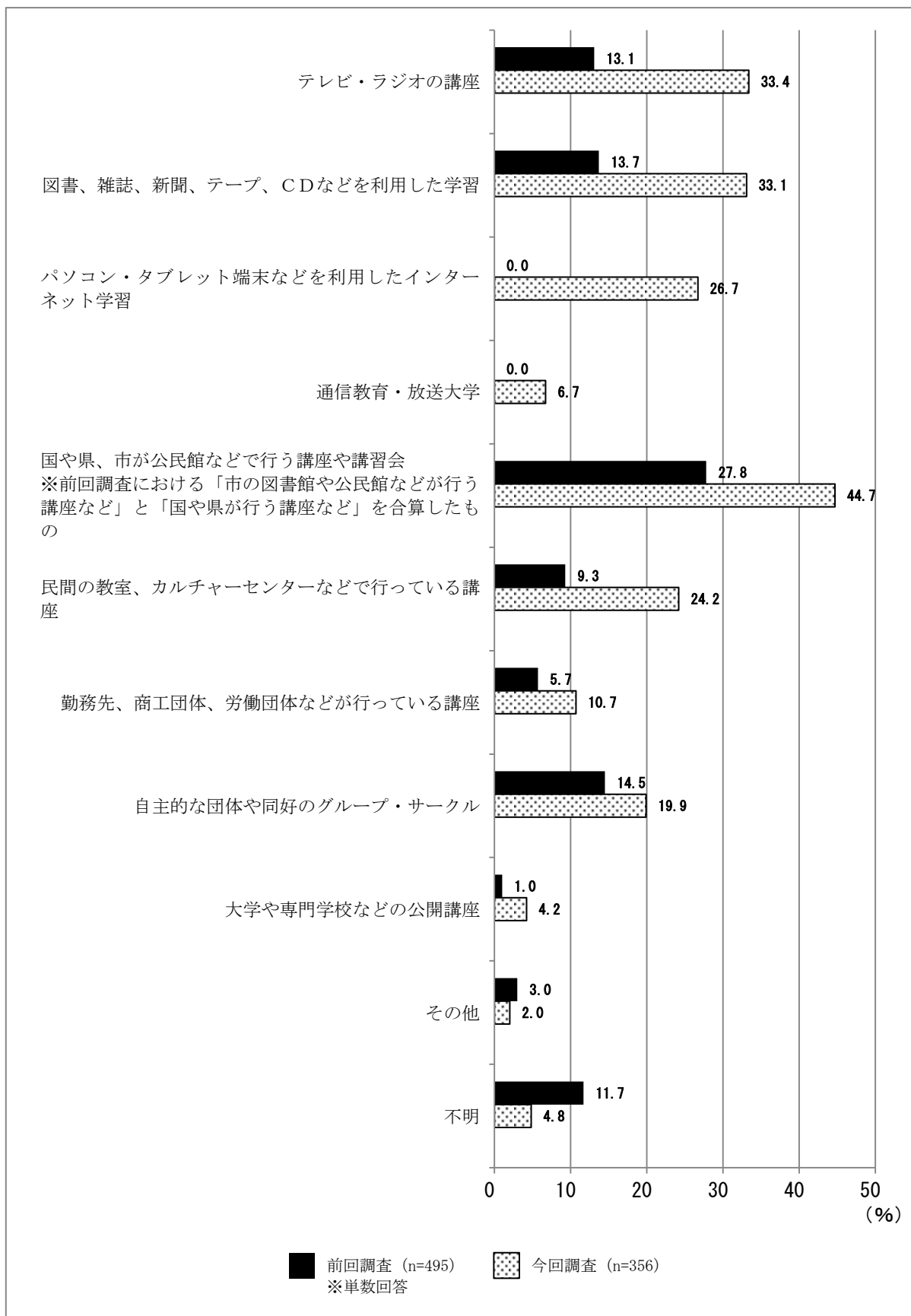
※今回の選択肢は前回と変更している箇所があります。また、前回調査は単数回答です

前回調査では、「市の図書館や公民館などが行う講座など」が24.2%と最も高く、「自主的な団体や同好のグループ、サークル」が14.5%、「図書、雑誌、新聞、テープ、CDなど」が13.7%となっています。前回と今回を比較すると、大きな差異は見られませんが、個人的に学習する機会を選ぶ人が増えていることがうかがえます。

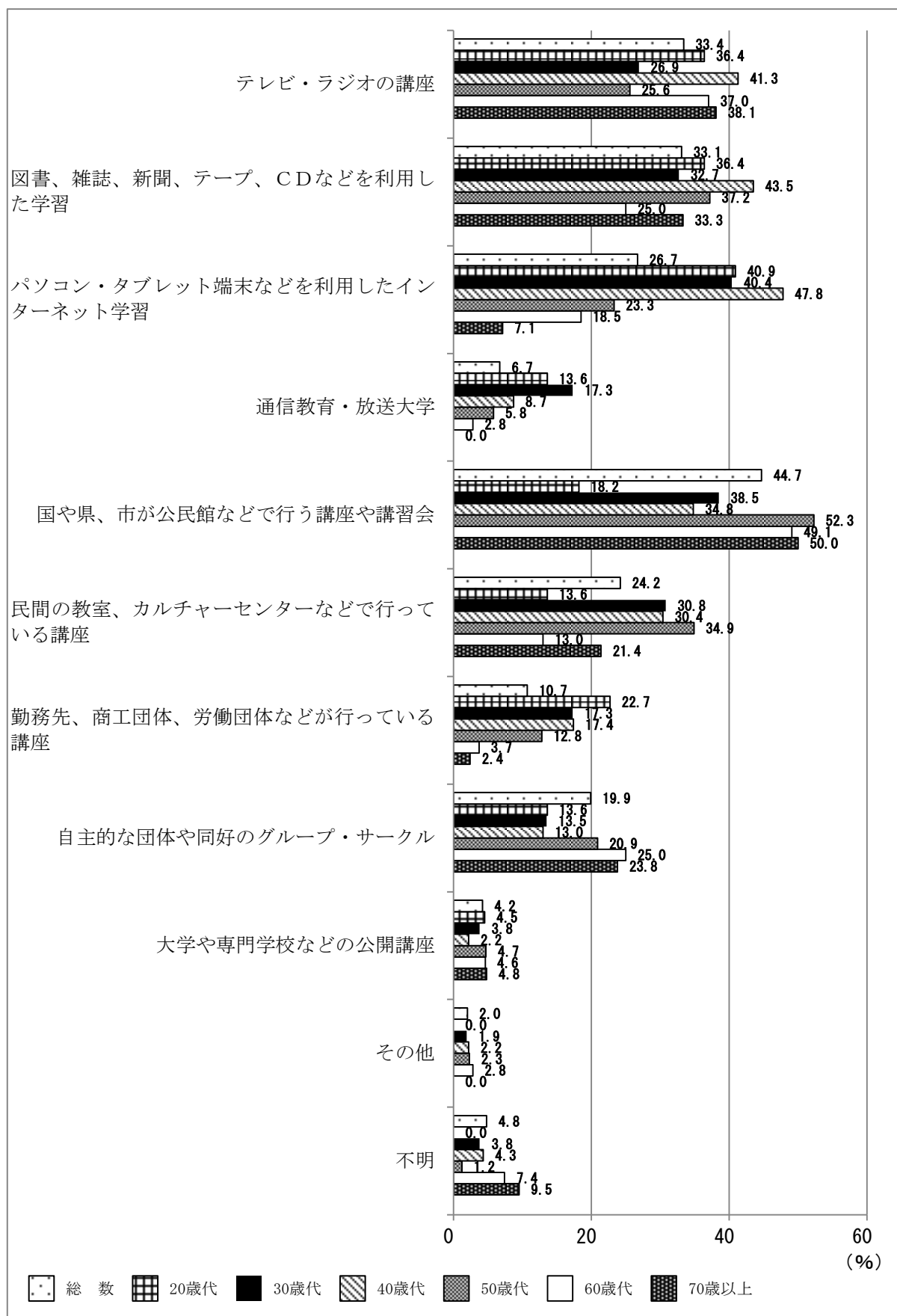
#### <他の調査との比較>

国の調査では、「公民館や生涯学習センターなどの公の機関における講座や教室」が50.4%と最も高く、以下「同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動」が35.0%、「自宅での学習活動（書籍など）」が32.0%、「カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間の講座や教室、通信教育」が31.8%となっています。三条市の傾向とほぼ同じであると言えます。

<前回調査との比較>



<年 代 別>



問13 学習や活動をしようとするときに、どのような情報があればよいと思いますか。あてはまるものをすべて選んで、番号に○印をつけてください。

回答者数 356人

<今回調査>

学習や活動をするときに、どのような情報があればよいか質問したところ、全体では「催し物・講座情報」が60.4%と最も高く、以下「学習や活動に利用できる施設情報」が39.0%、「学習や活動にかかる費用の情報」が33.7%、「団体・サークル情報」が29.8%となっています。

男女別で見た場合、大きな差異は見られません。

年齢別に見ると、20歳代は「学習や活動に必要な資料・教材情報」、30歳代は「学習や活動にかかる費用の情報」、40歳代より上の年代は「催し物・講座情報」が最も高くなっています。また、20歳代、30歳代では「資格や免許の取得方法」の回答率も高く、資格取得への意欲が高いことがうかがえます。

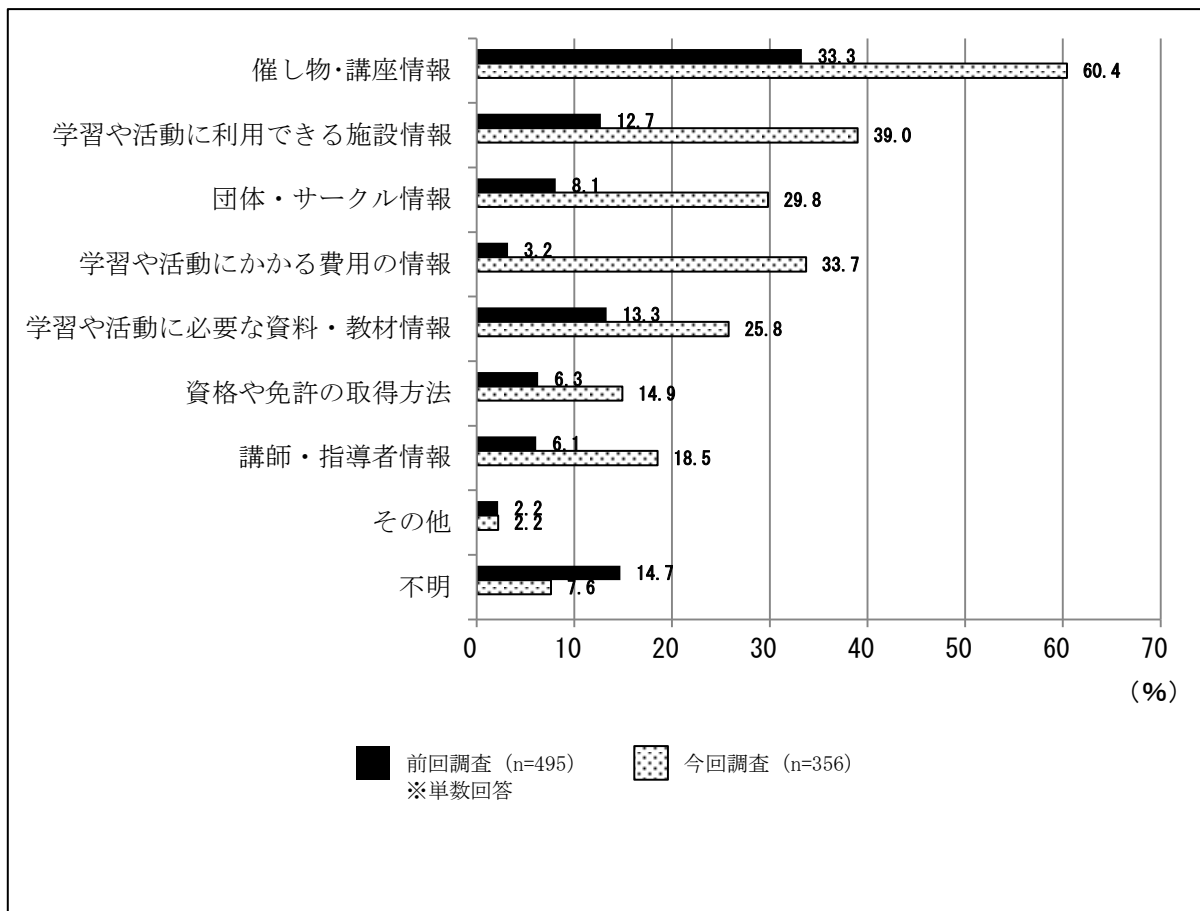
<前回調査との比較>

前回調査では、「催し物・講座情報」が33.3%と最も高く、以下「学習や活動に必要な資料・教材情報」が13.3%、「学習や活動に利用できる施設情報」が12.7%となっています。今回の結果と大きな差異はありません。

<他の調査との比較>

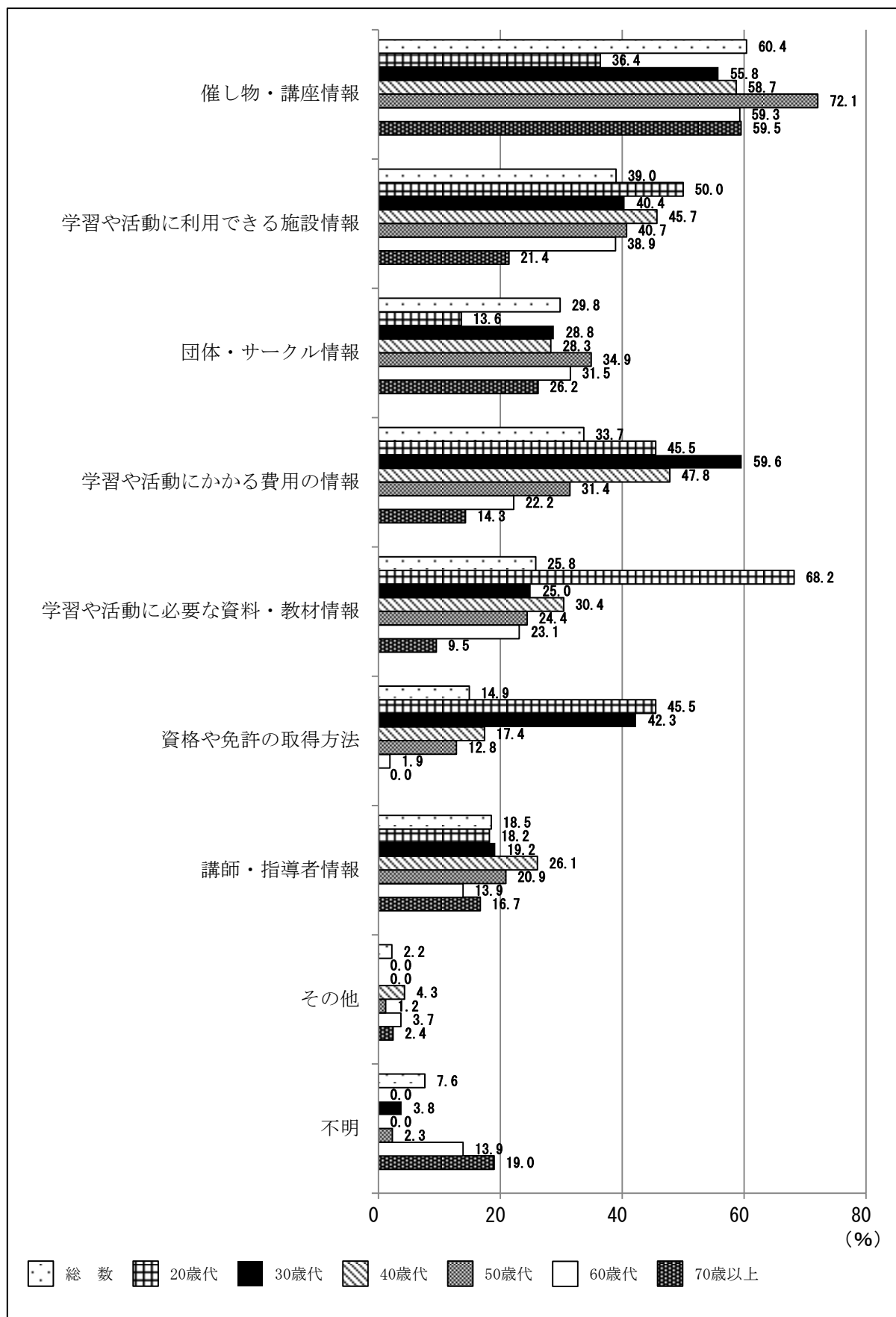
県が行った調査では、「講座や催し物など学習機会に関する案内情報、参加方法」が58.0%と最も高く、以下「施設の所在地、利用方法」が34.0%、「学習にかかる費用」が30.7%、「グループや団体の活動内容や加入方法」が27.4%となっています。三条市の傾向と大きな差異は見られません。

<前回調査との比較>





<年 代 別>



問14 生涯学習関連施設について、何か希望や要望はありますか。あてはまるものをすべて選んで、番号に○印をつけてください。

回答者数 356人

<今回調査>

生涯学習関連施設への希望や要望について質問したところ、全体では「誰でも気軽に参加できるような講座や行事、イベントを増やす」が55.9%と最も高く、「さまざまな生涯学習の機会についての情報をもっと住民に提供する」が44.1%、「各施設の所有する資料をインターネット上で検索できるようにする」が14.9%、「もっと数を増やす」「生涯学習について気軽に相談ができるような専門的な職員を置く」がそれぞれ14.3%となっています。

男女別で見た場合、男女とも「誰でも気軽に参加できるような講座や行事、イベントを増やす」が最も高く、男性は以下「施設への交通手段等の利便性を確保する」、「さまざまな生涯学習の機会についての情報をもっと住民に提供する」、「各施設の所有する資料をインターネット上で検索できるようにする」の順になっています。女性は、以下「さまざまな生涯学習の機会についての情報をもっと住民に提供する」、「もっと数を増やす」「生涯学習について気軽に相談ができるような専門的な職員を置く」の順になっています。

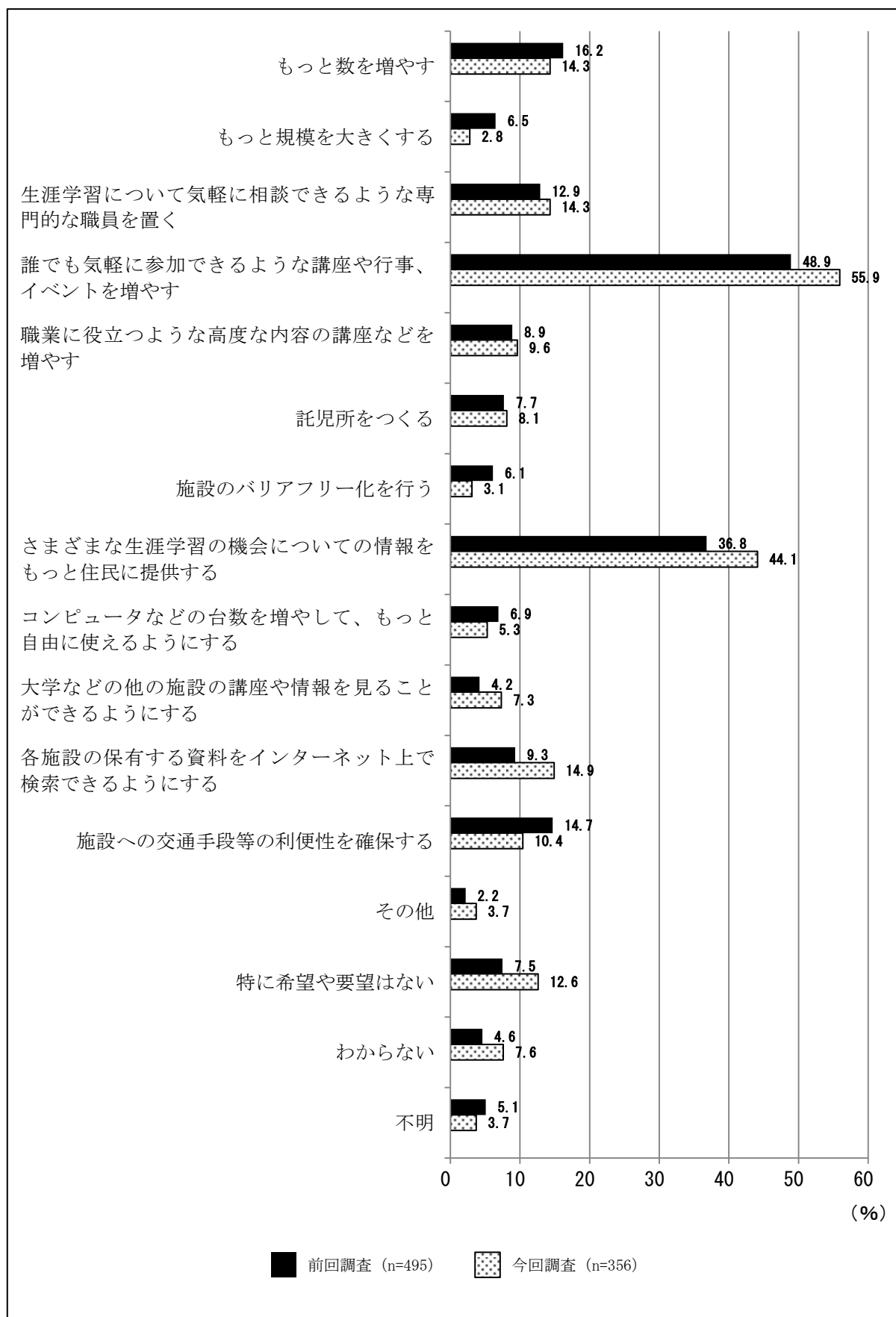
年代別で見た場合、20歳代は「さまざまな生涯学習の機会についての情報をもっと住民に提供する」、30歳代よりも上の年代は「誰でも気軽に参加できるような講座や行事、イベントを増やす」が最も高くなっています。

また、30歳代では「託児所をつくる」、40歳代では「職業に役立つような高度な内容の講座などを増やす」、70歳以上では「施設への交通手段等の利便性を確保する」の回答率も高く、年代によってニーズが異なることがわかります。

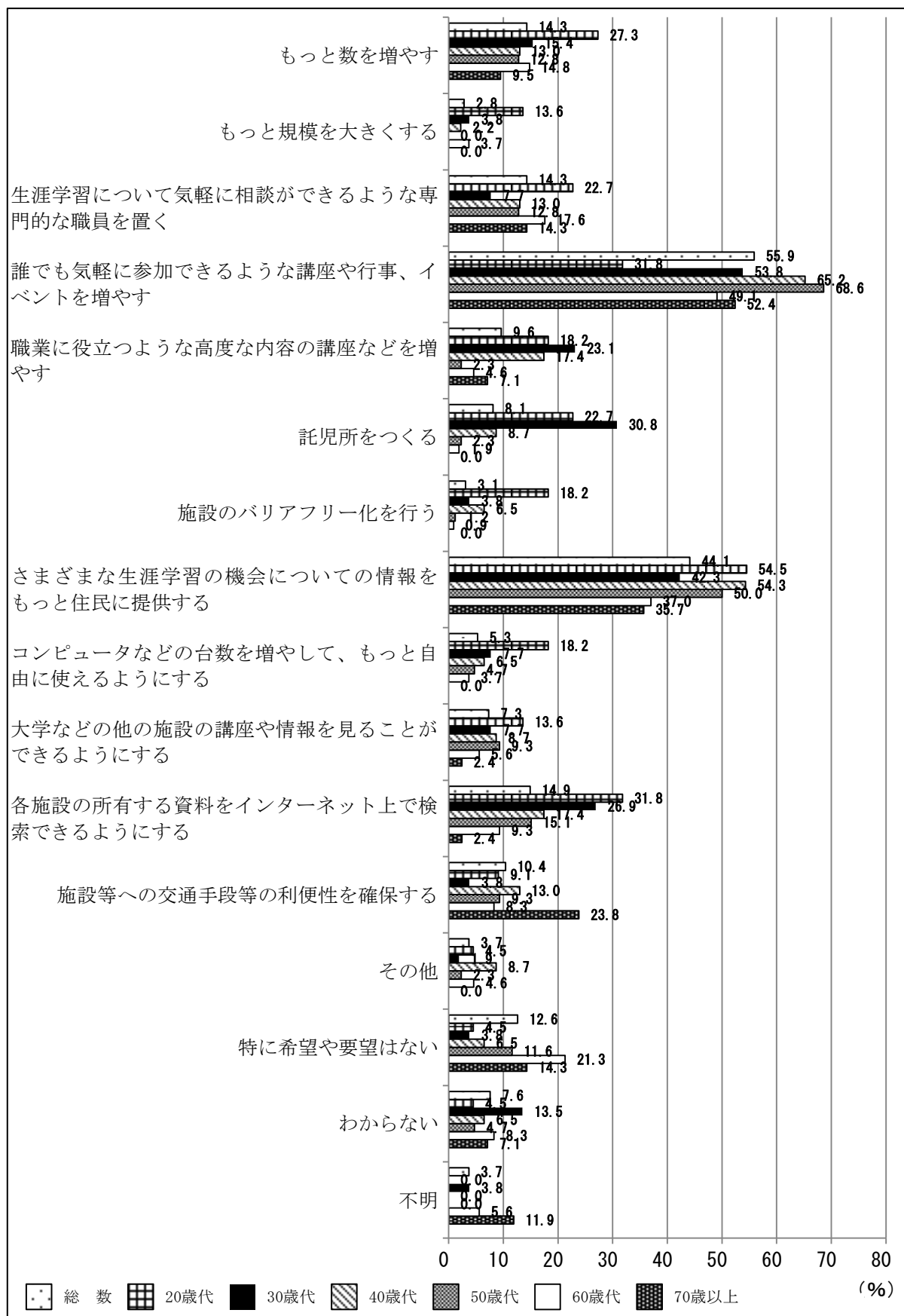
<前回調査との比較>※今回の回答の選択肢は、前回のものから変更したものがあります。

前回調査では、「誰でも気軽に参加できるような講座や行事イベントを増やす」が48.9%で最も高く、以下「夜間や休日でも利用できるようにする」が40.4%、「さまざまな生涯学習の機会についての情報をもっと住民に提供する」が36.8%となっています。今回の調査と同じ傾向であることがわかります。

## ＜前回調査との比較＞



<年 代 別>



問15 あなたは、学習を通して身につけた知識・技能や経験などを、今後、家庭や職場以外の地域社会で役立てたいと思いますか。当てはまるものを1つ選んで、番号に○印をつけてください。

回答者数 356人

<今回調査>

学習の成果を地域社会に役立てたいかどうか質問したところ、全体では「役立てたい」が35.4%、「役立てたいとは思わない」が20.5%、「わからない」が41.9%となっており、学習の成果を地域社会に役立てようという意識までには及んでいない方も多いようです。

男女別で見た場合、男性は「役立てたい」が「わからない」よりも若干高く、女性は全体と同じ結果となっています。

年代別で見た場合、20歳代、30歳代、70歳以上で「役立てたい」が最も高く、40歳代、50歳代、60歳代で「わからない」が最も高くなっています。

<他の調査との比較>

国の調査では、仕事や地域活動に生かしたいと思うかどうか質問しています。その中で、「思う」と答えた人が77.7%（「思う」43.3%＋「どちらかといえば思う」34.4%）、「思わない」と答えた人が21.5%（「どちらかといえば思わない」11.0%＋「思わない」10.5%）となっています。全国と比べて、三条市では学習成果を役立てたいという人が少ないことがわかります。

県の調査では、「役立てたい」が51.1%、「役立てようとは思わない」が36.1%となっています。県の調査と比較しても、三条市では学習成果を役立てたいという人が少ないことがわかります。

<全 体>

